

平成19年9月20日

報道機関 各位

東北大学大学院文学研究科長

平成20年度東北大学大学院文学研究科入学試験における出題ミスについて

平成19年9月19日(水)に実施した平成20年度東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻博士課程前期2年の課程(秋期・社会人特別選抜)東洋・日本美術史専攻分野の入学試験の筆記試験において、問1の資料読解問題で1名の受験者が予め英語を選択していたにもかかわらず、同受験者に対して漢文・古文の問題を配付していたことが判明しました。同研究科では、受験生に対し、出題ミスに関する解答を正解として扱い、不利にならないよう対処する旨説明するとともに、再発防止に向けて問題作成体制及びチェック体制を見直すことにしました。

1. 試験の概要

試験日時 : 平成19年9月19日(水) 9:30~11:30 筆記試験
15:30~ 面接試験

筆記試験科目: 専門科目

募集人員 : 歴史科学専攻 東洋・日本美術史専攻分野 若干名

作題・採点は専攻分野ごとに行う。

東洋・日本美術史専攻分野では、筆記試験として専門科目の1問で資料読解を課している。資料読解では、漢文・古文、中国語、英語のうち1つを選択することになっている。

2. 事実経過

本専攻分野の受験者は1名で、この受験者は英語を選択していた。しかし、作題者は、そのことを確認せず、漢文・古文による問題を作成し、筆記試験において受験させた。

筆記試験終了後の面接試験の際に受験者から質問があり、その場で作題者が出題ミスを認識した。面接試験終了後、作題者2名が協議し、当該受験者に対し出題ミスであることを伝え、この箇所の解答を正解として扱うと説明した。

今回のミスの原因は、作題者の確認ミスによるものでした。文学研究科では、ミスの経緯・対応をあらためて確認するとともに、再びこのようなことがないよう、問題作成体制・チェック体制及び試験実施体制について早急に見直しを行い、再発防止に万全を尽くすこととします。

本件に関する問い合わせ先

〒980-8576 仙台市青葉区川内 27-1

東北大学大学院文学研究科

入試就職室長 小林 隆

電話 022-795-6000、795-6001(影山)